



発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話 ③3033番
③3034番
編集兼 古賀 徳 兼
発行 年間600円 送料共

新執行部が発足

重大な情勢ひかえ指導部強化

「CO患者・遺族を守る会」結成のために全国の同志たちへみんなで働きかけよう！

新役員紹介

七月十四日行われた第一回中央委員会、一九六八年定期改選による新執行部の発足をこころより確認した。

本 部
組合長 宮川 睦男
副組合長 谷端 一信
書記長 古賀 春吉
書記次長(労働) 立山 寿幸

書記次長(組織) 山下 道雄
書記次長(政治) 古賀 徳継
書記次長(福祉) 広瀬 勝鮮
労働部長 立山 久
組織部長 田中 工
CO・遺族担当部長 程内 勝
守る会担当部長 宮本 文男
財務長 墨田 大代
会計監査(非常任) 原 登士男

本所指導部
指導部長(総務・労働組織担当) 山下 開
指導部長(労働担当) 藤沢 孝雄
指導部長(組織担当) 安達 一男
四山指導部
指導部長(総務・労働担当) 大橋 武彦
指導部長(組織担当) 百田 悟
三川指導部
指導部長(総務担当) 合志 幸男
指導部長(労働担当) 沖 正信
指導部長(組織担当) 織田 喬企

七月十四日行われた第一回中央委員会、一九六八年定期改選による新執行部の発足をこころより確認した。

副議長 小北 昭利
副議長 田代 政則
議長 森田 満明

書記長 古賀 春吉
副組合長 谷端 一信
組合長 宮川 睦男

書記次長 広瀬 勝鮮
書記次長 澁田 紀生
書記次長 立山 寿幸

組織部長 田中 工
労働部長 立山 久
書記次長 古賀 徳継

財務長 墨田 大代
CO遺族担当部長 程内 勝
守る会担当部長 宮本文男

指導部長(宮浦) 中屋 親盛
会計監査 山下 道雄
会計監査 原 登士男

指導部長(四山) 蒲池 哲夫
指導部長(宮浦) 安達 一男
指導部長(宮浦) 藤沢 孝雄

指導部長(三川) 沖 正信
指導部長(三川) 合志 幸男
指導部長(四山) 百田 悟

指導部長(港務) 大橋 武彦
指導部長(本所) 山下 開
指導部長(三川) 織田 喬企

国有化はねばり強い闘いで

炭労大会への三池の態度

炭労第五十五回定期大会は七月十五日から十七日まで東京で開かれたが、大会にのぞむ三池労組の態度が七月十四日の中央委員会に集約された。(組合長の集約による)

一、石炭資本家は石炭企業を投げだすほど弱気にもなっていないとみるべきであり、国有化闘争が経営者を混乱させているとみるのは過大評価である。

二、国有化闘争のカナメは政治権力を労働者階級に握ることであり、政権を独占側が握っているかぎり、国有化で炭鉱労働者の生活が一度によくなるということはないが、それでも公社案などをわれわれの力で実現させよう。

三、資本の側はたとえ全国一社化などを実現したとしても、一鉱ごとに基準を設定してそれに達しなければ閉山するといっている。これはスクラップアンドビルド政策の強化にほかならない。

四、現場抵抗をつよめ地域共闘をつよめ、闘いを強化し企業を放棄させるほどの強力な闘いを組み上げるべきことこそ、闘いの展望は生れる。具体的には第四次合理化反対であり、CO・遺族を守る闘いである。

選挙は宮浦、三川、港務の指導部
長三ポストに反対があり、投票が行われたが結果はつぎの通り。

宮浦指導部長(組織)
当選 安達 一男 二六六
次点 墨田 昭義 二四七

三川指導部長(組織)
当選 織田 喬企 四四九
次点 堀川 教雄 二〇九

港務指導部長
当選 大橋 武彦 九二
次点 山本 秀任 五三

大衆路線の徹底
十八期目の組合長に就任するにあたり全組合員、家族の皆様にご挨拶申し上げます。今年度から三池労組は創立以来ついでに支部制を廃止し、本部に指導力を集中し全組合員のエネルギーを一本化することになりました。

これは従来よりも支部別に比べてはるかに指導力がはたらくことになり、はるかに全組合員のものをひろげることになりました。

この統一指導体制を本年度中に軌道にのせることを協力いたします。

石炭政策に反対し、安保体制打破の為に本年度の闘いはただ一年間のものではなく、石炭政策全体をつがえ、炭労の連帯をかためつつ国有化闘争に一步をすすめる必要があります。重要な一環であることを今年こそ明らかにしましょう。

八月には原水禁大会もあり、このような反戦平和の闘いの強化も長期抵抗路線の重要な一環であることを今年こそ明らかにしましょう。

第四次合理化粉碎
CO・遺族闘争の

全組合員の総力をあげ 第四次合理化粉碎へ

組合長 宮川 睦男

以上のような大きな闘いの具体的な力点は、当面は七月末に予想される第四次合理化を粉碎する闘いです。

さらには、過去四年半のCO・遺族闘争の一層の前進をはかるために全国に「三池CO・遺族を守る会」を結成し全国の公害問題や合理化問題と結合させてCO闘争をさらに広げ、深いものにしていかねばなりません。

CO闘争も第四次合理化粉碎の闘いも、全組合員一人ひとりのものにするばかりか、三池炭鉱労働者の闘いとして、さらには大牟田、荒尾地区の全労働者のものとするためにも、大衆闘争路線の徹底と地域共闘の強化がいよいよ急務です。

全組合員・家族の皆様のご理解とご協力をおねがいします。